

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21520101

研究課題名（和文）カトリック改革の画像戦略と美術への影響に関する研究

研究課題名（英文）the strategy of images and the influence on art by Catholic Reformation

研究代表者

宮下 規久朗（MIYASHITA KIKURO）

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：30283849

研究成果の概要（和文）：本研究は、カトリック改革が西洋美術に及ぼした影響を解明するため、16 世紀後半から 17 世紀初頭にいたるローマを中心とするイタリアにおける教会と美術との関係に注目し、作品をめぐる権力と受容の問題を通して、カトリック改革が、マニエリスムとバロックとの過渡期であるこの時代の美術にどのように具体的に作用したのかを探るものである。

研究成果の概要（英文）：This research aims to clarify the operation of Catholic Reformation on art between Mannerism and Baroque through the problem of power and response noticing the relation of church and art in Italy from the second half of 16th century to the beginning of 17th century, in order to illuminate the influence on Western art.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：カトリック改革 美術 バロック マニエリスム ローマ

1. 研究開始当初の背景

（1）「カトリック改革」はかつては「反宗教改革」あるいは「対抗宗教改革」とよばれていたものだが、近年の研究によって、プロテスタントへの対抗以前からカトリック教会内部の自発的な改革運動が始まっていたこと、プロテスタントへの対抗といった動機以上の広がりを持続性をもっていたことがあきらかとなり、名称が改められたものである。カトリック改革とバロック美術の発生との相関関係については従来から認められて

いたが、近年ますますその精度が増し、意義が明確となってきた。

（2）申請者は 16 世紀後半のローマの美術について長年取り組み、殉教図サイクルと初期キリスト教文化の復興運動を中心に研究を行ってきた。今回は、2000 年以降のカトリック改革をめぐる社会・文化的研究の深まりを反映して、さらに教会の検閲の実態や教団の活動を調査することによってさらに具体的かつ総合的にカトリック改革が美術に及ぼしたメカニズムについて解明しようとする。

るものである。

2. 研究の目的

(1) 申請者のこれまでの研究は、1600年前後のローマにおける聖堂装飾などの美術制作を中心に、主に作品や図像の調査を主眼とし、そこに表れた初期キリスト教文化の主題や様式を考察するものであった。しかし、カトリック改革と初期バロック美術との関係をより具体的に理解するために、教会側の具体的な画像選択の基準や異端審問所の検閲の実態について調査する必要性が生じてきた。検閲については、不明な点が多いが本格的な調査がなされていないこともあり、本研究では検閲の基準や適用例について探ることとする。

(2) この分野の研究は始まったばかりであり、まだ解明されていない領域に満ちている。カトリック改革の思想的・政治的動向についてはキリスト教史とイタリア史においても、もっとも研究が活発なジャンルであるが、カトリック改革運動の視覚的な戦略をあきらかにするのは美術史学に委ねられているといつてよい。それによって、西洋における宗教改革の重要性に比して不当に低く評価されていたカトリック改革の全貌と意義をあきらかにすることにつながるだろう。教会側の美術やイメージについての思想と政策を具体的に解明することで、単なる作品研究ではわからなかった作品生成の力学を解明することが期待される。

3. 研究の方法

カトリック改革の聖像使用と選択および検閲に関する公文書や書簡・記録といった一次資料を渉猟して、具体的なデータに基づいてカトリック改革の図像戦略をあきらかにする。次に、この方針が具体的に表れた現象として、日本に請来された聖画像の遺品と資料から当時の宣教方針について考察する。また、1600年代に起こったカラヴァッジョの作品拒否をめぐる資料を再検討し、アントウェルペンを中心に布教用に大量に印刷された版画の図像と流通経路について調査する。ローマにおける教皇庁と諸教団の画像選択の実態と、海外宣教におけるそれとの比較によってカトリック改革のイメージ戦略の実態と美術への影響をあきらかにする。

4. 研究成果

(1) カトリック改革の北方での影響と展開について調査した。南ネーデルラント（フランドル）では、16世紀末のイコノクラスム以降、フランケン兄弟やマールテン・デ・フォスによってカトリック改革を反映した造形表現が見られ、その傾向はルーベンスの盛期バロック様式によって完成された。こうした美術を視察して回った。さらに、イタリアのバロック美術が遅れて伝播し、18世紀初頭に華麗なバロック美術が展開した南ドイツ、バイエルン地方に散在するコスマス・ダミアン・アザムとエギット・クイリン・アザムのアザム兄弟による諸教会の装飾について調査した。ヴェルテンブルクやロールにある教会装飾は、ベルニーニの総合芸術（ベル・コンポスト）の思想を究極まで発展させたものであり、カトリック改革の理想とする雄弁で感情に訴えかける民衆的な美術の完成型と見ることができる。また、ローマでは没後400年を記念してカラヴァッジョに関する大規模な展覧会が開催され、従来のカラヴァッジョ研究を集大成するような研究が相次いで発表されたため、それを調査した。

(2) カラヴァッジョ研究のほか、カトリック改革がもっとも成功し、17世紀のバロック美術の隆盛につながったとされるスペインの美術について調査研究を行った。美術理論家でもあった画家フランシスコ・パチェコに牽引され、ベラスケスやスルバランを経てムリリオやバルデス・レアルにいたるセビーリャにおける絵画制作の状況、マルティネス・モンタニェスの彩色彫刻とチュリゲラ様式の祭壇衝立の導入などについて、現地に赴いて調査した。また、セビーリャと並ぶ宗教彫刻の中心地であるバリャドリッドで、グレゴリオ・フェルナンデスを中心に、アロンソ・ベルゲーテ、ファン・デ・フーニ、ペドロ・デ・メーナらの彫刻作品を調査した。また、スペイン・バロックを特徴づけ、中南米のバロック様式の主要素となったチュリゲラ様式について調査し、その創始者ホセ・ベニート・チュリゲラの祭壇衝立についてサラマンカとセゴビアの教会で作品を実見し、資料を収集した。

(3) カトリック改革の影響が顕著でなかったと思われてきたフィレンツェを中心に、トスカーナ地方における17世紀初頭の画壇に

ついて現地でも調査を行った。教皇領であったボローニャ絵画の影響が強く及んでいることを確認し、フィレンツェのバロック美術の萌芽を跡付けることができた。ボローニャの美術におけるカトリック改革の問題についても、近年発見や研究が深まっていることを知り、さらなる研究の必要性を感じた。ローマとフィレンツェの研究所と図書館において当該研究の資料を収集し、調査することができた。それによって、カトリック改革の政策と思想が、17世紀に入ってから徐々に変化していく過程を読み解くことができた。

(4) 16世紀後半に日本にもたらされ、教皇庁や教団の画像輸出政策と画像をめぐる宣教方針についても、記録・資料と布教用画像との両面から調査した。17世紀以降の国内の南蛮美術の資料を調査し、従来の南蛮研究の成果を咀嚼して図像の分類やその意味内容についても考察を深め、いくばくかの成果を得た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 宮下規久朗「カラヴァッジョとキリスト教—可視化された回心と奇蹟」『神学研究』第60号、査読無、関西学院大学神学部、2013年3月、103-115頁。
- ② 宮下規久朗「ヴェネツィア 海の都の美をめぐる」『芸術新潮』2011年11月号、査読無、10-91頁。
- ③ 宮下規久朗「純朴なディレクタント—三島由紀夫の美術批評と美意識」『別冊太陽 三島由紀夫』(日本のこころ175) 2010年11月、査読無、平凡社、150-155頁。
- ④ 宮下規久朗「美術における草案の諸相」『文学』第11巻・第5号、9・10月号、査読有、岩波書店、2010年9月、225-247頁
- ⑤ 宮下規久朗「アンディ・ウォーホル作品における聖と俗」『西洋美術研究』第15号、査読有、2009年12月、137-153頁。

[学会発表] (計4件)

- ① 宮下規久朗「美術における血」日本自己

血輸血学会、於KKRホテル大阪、2013年3月9日。

- ② 宮下規久朗「カラヴァッジョとキリスト教」関西学院大学神学部主催秋の学術講演会、於関西学院会館、2012年11月16日。
- ③ 宮下規久朗「カラヴァッジョの生涯と芸術」金沢大学西洋史学研究室主催講演会、於金沢大学、2011年11月5日。
- ④ 宮下規久朗「風俗画における食」風俗絵画研究会、於立命館大学アート・リサーチ・センター、2010年12月18日。

[図書] (計8件)

- ① 宮下規久朗『知識ゼロからのルネサンス 絵画入門』(単著) 幻冬舎、2012年9月、151頁。
- ② 宮下規久朗『ヴェネツィア物語』(塩野七生と共著) 新潮社、2012年5月、126頁。
- ③ 宮下規久朗『ヌードの美術史』(共著) 美術出版社、2012年3月、151頁。
- ④ 宮下規久朗『フェルメールの光とラ・トゥールの焰—「闇」の西洋絵画史』小学館101ビジュアル新書、2011年4月、191頁。
- ⑤ 宮下規久朗『三島由紀夫の愛した美術』(井上隆史と共著) 新潮社、2010年10月、127頁。
- ⑥ 宮下規久朗『裏側からみた美術史』(単著) 日本経済新聞出版社、2010年10月、170頁。
- ⑦ 青山昌文・坂井素思編、宮下規久朗『社会の中の芸術—料理・食・芸術文化を中心として』(共著) 放送大学教育振興会、2010年3月、252頁。
- ⑧ 宮下規久朗『カラヴァッジョ巡礼』(単著) 新潮社、2010年1月、127頁。

[その他]

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮下 規久朗 (MIYASHITA KIKURO)
神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：30283849

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：